

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	神奈川県海老名市立柏ヶ谷小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	3	2	2	2	17	25
児童数	81	76	90	84	75	80	4	490	

研究の概要

1. 研究主題

研究主題	基礎基本の定着と自信・よさの発見
研究副主題	～習熟度に応じた支援を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

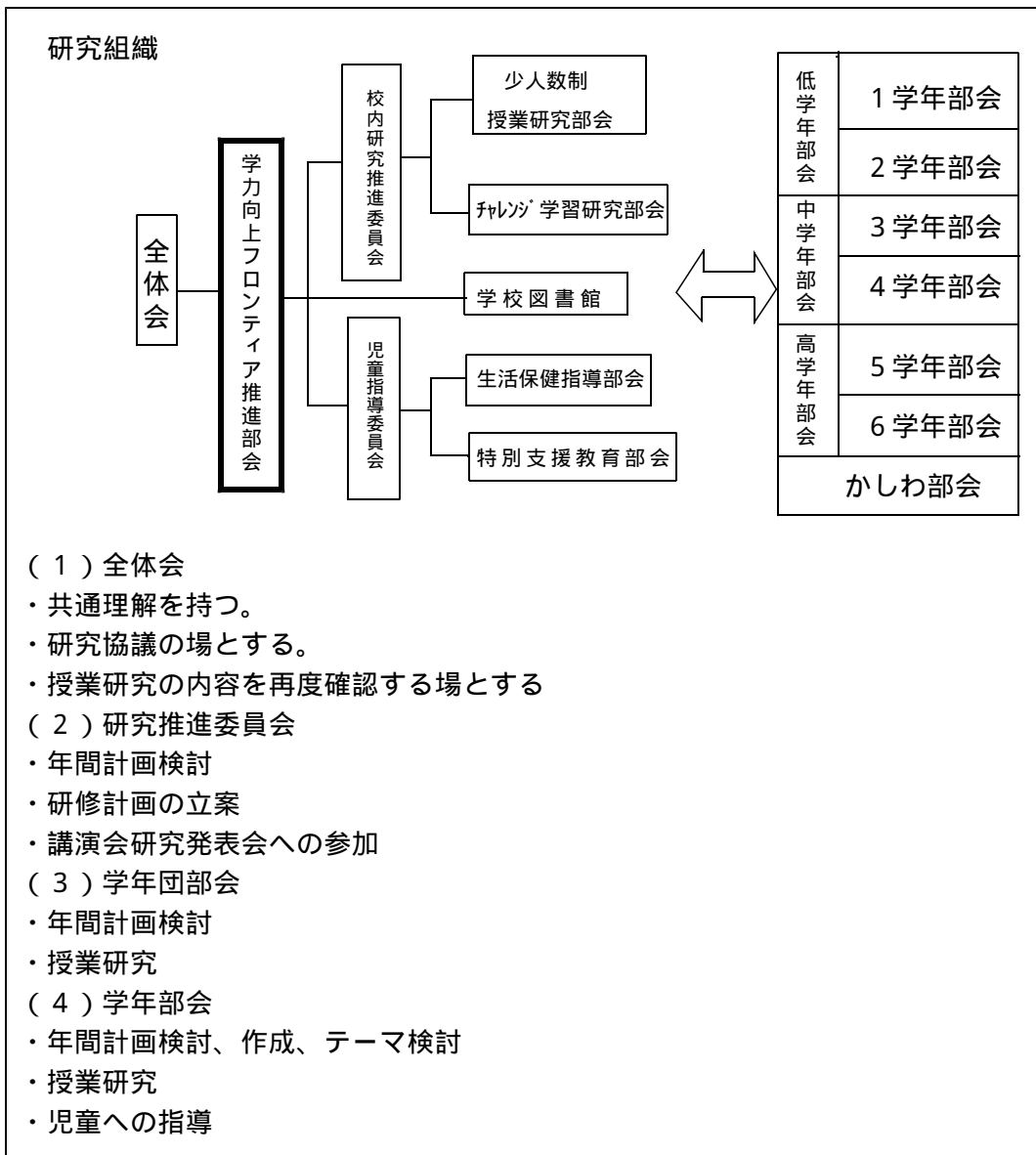
算数科を通して研究 理解力・習熟度に差が出やすい教科であり、系統性が求められる教科であるため。 1・2年生 「きめ細かな指導を通して主題に迫る」 3～6年生 「少人数制授業を通して主題に迫る」

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	算数科における少人数制授業、習熟度別授業を実践し、授業研究を通して指導法の改善を図る。 児童の学力や学習意欲を調査し、実態を明らかにする。 計算チャレンジタイム、特別支援教育による学力向上を図る。 算数における絶対評価の方法を具体的にし、共通理解を図る。 研究の中間報告をする。
--------	---

平成 16 年 度	<p>学習内容によってグループ分けを工夫していく。</p> <p>習熟度に応じた指導方法の改善と教材・教具の開発していく。</p> <p>研究成果の発表を行う。</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

今年度、少人数制授業の形態を3年生以上が実施することによって、クラスの人数を減らせることは、個々の児童への指導が今まで以上に時間をかけられる環境になった。ただし、個別指導にも限界があり、個々の児童の学力差を見通した学習展開を試みても、授業についてこられない児童や学習内容に物足りない児童もでてきてしまう。そこで、習熟度別グループの必要性がクローズアップされる。グループを作ることにより、より効率的な環境が生まれると共に、個々の児童の学習に対する要求を満たす環境が生まれてくる。

しかし、その環境を個々の児童の気持ちを無視して構成することは、とても危険である。児童の内面に大きなダメージを与えかねない。児童相互の中に、排除感・疎外感が生まれやすい環境になる。このような環境では教育的効果は期待されないであろう。グループ作りにおいては、個々の児童が自己責任において、選択できる条件を整備することが大切である。

習熟度別グループの構成については、教科の特性や単元の内容によって構成自体を変えていく必要がある。クラス単位で学び合う効果、少人数で学び合う効果、習熟度別で学び合う効果等、学習内容を十分見極めたうえで構成を考えていくべきである。

学習効果を上げていくためにも、授業展開の工夫が重要である。具体物や半具体物の活用、補助教材の活用、ドリル、計算プリント、多義に渡る学習プリントを用意した授業展開等、より学習効果が上がるよう準備に心がける。

教え合い、学び合いのように児童相互の学習を織り交ぜながら、「自信・よさの発見」につながる「ひびきあい」を深める授業展開を工夫している。

1・2年生においては、少人数制が導入されてはいないが、個々の児童への指導形態を充実させるための「きめ細かな指導」として、理解に時間がかかる児童への配慮として、個別に質問ができるスペースを設けて、気軽に質問できるようにしたり、習熟度に応じたプリントを用意して個々のペースにあった学習ができるようにしている。また、児童相互の教え合いを通して、「ひびきあい」を深めている。

今年度は、それぞれの学年が様々な試みを通して、児童の学力向上につながる取り組みがなされてきたが、まだ、満足いく結果は得られていない。しかし、確実に変化は出てきている。受け身の学習から自分から進んで取り組む学習へ、と。

2. 今後の課題

- ・習熟度に応じた指導の流れや教材・教具の工夫をどのようにするか。
- ・計算チャレンジへの取り組ませ方で、マンネリ化をどう克服するか。
- ・読書指導における家庭との連携強化をどのように図るか。
- ・学習上の躰において、家庭の関心を如何に高め、協力を引き出していくか。
- ・特別支援教育の対象児童の増加にどのように支援体制を整えていくか。

学力等把握のための学校としての取組

6月に、学力調査を3・5年生に実施する。同じ6月に、学習意識調査を全学年に実施した。1月に学習意識調査を全学年に実施した。

学力調査によって「基礎・基本の定着」がどの程度達成されているかを的確に把握し、その原因を明らかにするとともに対策を講ずる。

学習意識調査によって「自信・よさの発見」がどの程度浸透しているか把握し、その原因を明らかにするとともに対策を講ずる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

9・10月号の学校便り（柏っ子）で、保護者・地域等へ取り組みの状況を知らせる。

平成16年2月4日（水）14時00分 中間報告会の実施
研究紀要の作成、各校への配布を通して研究状況を知らせる。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無